

## △プロムペリドール錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】プロムペリドール Bromperidol 【分類】抗精神病薬 [ブチロフェノン系]

【単位】△1mg・▼3mg・▼6mg/錠, ▼細粒1%

【常用量】3~18mg/日 [最大36mg/日]

【用法】1日1~数回

【透析患者への投与方法】脂溶性薬物であるためおそらく減量の必要はないと思われるが、薬物動態に関する文献はほとんどなく、透析患者の投与方法に言及した文献もない (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】脂溶性薬物であるためおそらく減量の必要はないと思われる (5)

【特徴】ハロペリドールのクロロフェニル基がプロモフェニル基に置換されたブチロフェノン系の抗精神病薬であり、主な副作用である錐体外路系障害はハロペリドールより少ない。作用時間は長く1日1回投与も可能。

【主な副作用・毒性】振戦、発疹、筋強剛、流涎、眠気、アカシジア、口渇、便秘など。

【安全性に関する情報】クロルプロマジンとペルフェナジンより効果発現は早い<sup>1)</sup>が、錐体外路症状は強く発現する (Benfield P, et al: Drugs 35: 670-84, 1988) 血中プロラクチン上昇作用はハロペリドールと同等と思われる (Yasui-Furukori N, et al: Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry 26: 575-8, 2002)

【F】50% (10)

【tmax】4~6hr (1)

【代謝】CYP3A4で代謝 (TDM 22: 118-21, 2000) グルクロン酸抱合反応による代謝が主で、N-脱アルキル化による代謝はマイナー (1) 活性代謝物はない (瓜生 直樹: ファルマシア 22: 608-11, 1986) CYP3A4によりN-脱アルキル化される (Tateishi T, et al: Life Sci 67: 2913-20, 2000)

【排泄】グルクロン酸抱合体として24hrまでに18%尿中に排泄 (1)

【CL】 $0.85 \pm 0.09 \text{L/hr/kg}$  [iv] (1)  $1.37 \pm 0.52 \text{mL/hr/kg}$  (Lee SY, et al: Hum Psychopharmacol 2006 PMID: 16915578)

【t1/2】24hr (10) 20~30hr (1)  $20.4 \pm 3.7 \text{hr}$  (Lee SY, et al: Hum Psychopharmacol 2006 PMID: 16915578)

【蛋白結合率】約97% (1) 90% (10)

【Vd】 $23.7 \pm 7.5 \text{L/kg}$  [iv] (1)

【MW】420.32

【透析性】蛋白結合率が高く、Vdが大きいため透析で除去されにくい (5) 資料なし (1)

【TDM のポイント】基準値 15ng/mL 以下 (SRL 検査案内) 血中濃度 12ng/mL 以上を超えると統合失調症への効果は増強しない (Someya T, et al: J Clin Psychopharmacol 2000 PMID: 10770455)

【薬物動態】血中濃度には個体差が大きい (染矢俊幸, 他: 臨床薬理 29: 179-180, 1998) 化学構造は類似しているが、個人内でもハロペリドール血中濃度との相関はない (Yasui N, et al: Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry 1998 PMID: 9612845)

【O/W 係数】544 [1-オクタノール/水系, pH7] (1) 【pKa】8.62 (1)

【相互作用】アドレナリンの血圧反転のため併用禁忌 (1) アルコール、中枢抑制剤等との併用注意 (1) トリヘキシフェニジルとビペリデンによる相互作用を認めない (大谷浩一, 他: 臨床薬理 28: 423-4, 1997) デシプラミンとの相互作用を認めない (Suzuki A, et al: Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry 20: 1265-71, 1996) CYP3A4を阻害するイトラコナゾール併用により血中濃度が約1.7倍上昇 (Furukori H, et al: Psychopharmacology(Berl) 145: 189-92, 1999)

【更新日】20241003

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。